編集後記

2009 年も終わろうとしている。自分が還暦になるなんて想像がつかなかったが、いざそうなってみるととくに感慨もない。ただ一つ齢を重ねたという思いのほうが強い。それよりは個別の体験、モンゴルの調査とか、大学祭の達成感とか、孫の誕生とか、サンタクロースになったこととかが自分にとって大切なことだったのだと思う。それに比べると学生諸君にとってのこの一年は、その前の一年とかなり違い、まちがいなく成長したように感じられる。今月寄せてくれた皆さんの文章にそう感じさせるものがたくさんありました。

追伸的に２つ。ひとつは解剖をした高校生からのレポート。

動物の解剖をするのは初めてだったので少し怖い気持ちもありましたが、作業を進めていくと心臓や肺などを見たり触ったりしていつのまにか夢中になっていきました。3 時間があっという間でした。ロードキルが相模原は移行帯であるために多いと聞いて驚きました。年間 300 頭も死んでいるらしく、人間と動物がよりよく共存していけたらいいのにな、と考えさせられました。

もうひとつは 5 歳の子供のサンタさんへの手紙。

サンタさん。ありがとう。プレゼントをくれたから。